



## 来年秋の開館に向けて準備中

九州歴史資料館は、太宰府市に昭和47年（1972）に設置され、昭和48年（1973）に展示室がオープンしました。大宰府史跡の調査研究をはじめ、歴史資料の収集、保管、調査及び研究と併せて展示を行う施設として、長年県民の皆様に親しまれてきました。平成16年(2004)に「九州歴史資料館将来構想検討委員会」が新たな場所での速やかな整備の必要性を提言しました。それを受け、福岡県教育委員会では移転再整備業務を行ってきました。新施設は平成20年4月に着工し、本年6月に本館建築工事が竣工しました。今後、展示工事等が施行され、平成22年秋に開館の予定です。

新施設本館は、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造の二階建てです。伝統的な日本建築の雰囲気を持つ外観は、周囲の環境と調和するよう設計されています。また、福岡県文化財保護行政の拠点施設として、九州全域を視野に入れながら、福岡県固有の歴史や伝統文化の調査・研究並びに、その保存・活用、公開普及のための博物館的機能と大宰府史跡や県内各種発掘調査等に関わる埋蔵文化財センター的機能を併せ持つ施設となります。現在、県文化財保護課内に新九州歴史資料館準備室が設置され、開館に向けての諸業務を実施しています。

## 古神像の出現－宮若市・宮永八幡神社－



宮永八幡神社神像の内の一躯  
(宮若市指定文化財・九州歴史資料館保管)

神像とは、神の姿を象った彫像のことです。神殿の奥深くに秘めやかに安置されて、普段人が目にすることはありません。この点、同じく信仰に関わる彫像でありながら、仏像が人と直接向き合うこととは、様子が異なっています。そのような事情もあって、仏像の愛好者が少なくない一方で、神像は知る人ぞ知る存在だったのでしょうか。しかし近年では、神社側のご理解のもと神像の調査が行われたり、神像の展示会が行われたりすることも増えてきました。その世界に次第に光が当てられるようになってきているのです。

福岡県ではまだ、本格的な神像調査は始められていません。ただ、いざ調査が始まれば、文化財としてみた場合にも重要な神像が、続々と現れてくることでしょう。それを確信させる存在のひとつが、近年たまたま知られるに至った、宮永八幡神社の神像です。神社は、宮若市の西方、西山(644.6m)の裾野から舌状にのびた丘陵の上に、木々の緑に包まれながらひっそりと社殿を構えています。その神殿の中から見つかった神像のうち実に5躯が、800年以上昔に造られた、大変古い像でした。円満な顔立ちや静穏な趣は、その造像が平安時代後期であることを、はっきりと示しています。

30cm弱から40cm弱の大きさを測るこれらの古神像は、どの像も同じく、基本的に一本の樟の材木から、像の全容を彫り出しています。その表現は簡潔で、坐っている神の姿を表しながら、体型はまるで立ち木そのままの姿をしていて、衣文も全く刻まれていません。このような簡潔さは、神像にまま見られる、まさに神像らしい表現です。そして樟という材は、九州地方の仏像に特徴的に多用されるものです。そうしてみると宮永八幡神社の神像は、古く、九州地方の神像らしい特徴を備えた作例だ、とすることができます。

なおはじめに、神像と仏像の違いにふれましたが、宮永八幡神社の神像を見ると、仏像によく似た像が含まれています。これは実は神像が、元々仏像と深い縁をもつことを偲ばせています。神と仏は、共生し交錯しながら、日本の信仰文化の主役をつとめてきました。だからこそ、やはり神像についても、仏像同様に意識されるべきではないかと思うのです。神像は公開が憚られている場合が多く、その

ことに最大限の配慮は必要です。しかし人知れず朽ちる前に調査をしておくことも、今の時代では必要なことではないかと考えています。神殿の奥には、まだ知られていない豊かな世界が広がっています。その世界を知ることは、現代日本人にとって大切なことであるように思います。(学芸調査室 井形進)

## 『水城のあゆみ－水城跡の調査研究成果－』

水城跡は白村江の戦いを契機とし、天智天皇3年（664）に築造された国の特別史跡です。当館では1971年以来、約30回にわたり水城の発掘調査を行ってきました。この調査成果を元に、水城の誕生から現在に至るまでの歴史について出土品を中心とした約80点の展示資料と共に紹介します。

## 水城の築造以前

水城には様々な時代の遺跡が眠っています。水城の西側には約9万年前の火砕流が堆積する丘陵があり、その周囲からは約1万4千年前のナイフ形石器等の旧石器時代の遺物の他、弥生時代の竪穴住居、欠堤部からは古墳時代の土器が出土するなど水城築造以前の活動の様子が窺えます。

## 水城の築造

水城は土塁と濠で構成され、東西に城門が造られていました。水城築造当初の城門は瓦・礎石を用いない掘立柱の門で、軍事的性格が強いものです。外敵の侵入を防ぐ土塁前面は約70度の急傾斜に盛られ、基礎部分には敷粗朶を敷き、版築工法を駆使して造られました。これらの土木・建築技術は、朝鮮半島からもたらされた当時の最先端技術であり、水城の築造は緊迫した国際情勢における国家事業と言えます。



土塁と敷粗朶

## 水城の守り

8世紀初頭には、大宰府政庁Ⅱ期の築造に併せて、大々的に改修されました。特に、門は瓦葺きの礎石建物へと変わり、軍事的な機能から、外国使節を饗応する大宰府の表玄関としての機能が重視されていったと考えられます。しかし、8世紀後半には、新羅と再び緊張関係に至り、その防備のため天平神護元年（765）には「修理水城専知官」が置かれ、水城の修復に当たっています。



水城西門門柱（Ⅰ期・664年）

## その後の水城

水城は12世紀には維持されなくなったことが、濠などの最終埋没の年代から明らかになっています。また、西門の土塁頂部には、3基の経塚が造営されており、それまでとは異なったあり方が見られます。このように平安時代末には廃絶した水城ですが、平地に横たわる長大な構造物であり、その後の人々の記憶から水城がなくなることはなく、紀行文や地誌類にも、たびたび登場します。



西門土塁上に築かれた経塚

## 水城のこれから

2009年、当館は38年に及ぶ水城の調査成果を総括する報告書を刊行しました。しかし、水城は長大な遺跡で、全容解明には至っていません。その一方で、近年太宰府市・大野城市を中心として整備事業が始められ、地域の方々が親しみ、手をかけながら育てていく水城を目指し、市民の手によって樹木調査や土塁復旧作業も実施されています。（学芸調査室調査班員）

平成21年度調査成果展「水城のあゆみ」は、3月31日まで開催  
調査成果展「大野城跡出土刻書木柱と軸受金具」も同時開催

市民による土塁の版築体験  
(大野城市教育委員会提供)

九州歴史資料館	行事・事業予定
展 示	常設展示：○九州歴史資料館の活動 ○福岡県の考古資料 ○福岡県の美術工芸資料 ○調査成果展：「大野城跡出土刻書木柱と軸受金具」「水城のあゆみ—水城跡の調査研究成果—」3月31日（水）まで ○特集展示：「辟邪の意匠 福智町神崎1号墳出土資料」3月31日（水）まで ○パネル展：「九歴の歩み（仮題）」平成22年3月2日（火）～3月31日（水）予定
講 演	九歴講座：各回とも13:30～15:30【会場】九州歴史資料館（第4回を除く） 第4回 10月24日（土）「大宰府跡蔵司地区現地説明会」（9:30～11:30）事前申込不要、【会場】蔵司丘陵（政府跡西側） 第5回 11月14日（土）「大野城跡を発掘する」 第6回 12月5日（土）「大野城跡を修理する」 第7回 1月16日（土）「世界遺産登録を目指す〈近代化遺産〉」 第8回 2月6日（土）「水城と大野城を読みとく」 第9回 2月20日（土）「世界遺産登録を目指す〈宗像・沖ノ島と関連遺産群〉」 第10回 3月6日（土）「九歴の歩み」 新九州歴史資料館紹介講座：各回とも13:30～15:30【会場】小郡市埋蔵文化財調査センター【テーマ】「大宰府とムラの暮らし」 第1回 12月12日（土） 第2回 1月9日（土） 第3回 2月13日（土） 第4回 3月13日（土） 小郡市埋蔵文化財調査センターまで事前申込必要(0942-75-7555)
発掘調査	大宰府跡蔵司地区 10月～3月 首羅山遺跡（本谷基壇部）10月～12月
求 菩 提 資 料 館	常設展示：「求菩提山修験道の世界」 企画展示：10月14日（水）～11月29日（日）「国東半島写真帖～藤田晴一写真展～」 ミニ企画展：平成22年2月～3月「おひなまつり」 史跡ガイド活動：（申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします） 〒828-0085 豊前市鳥井畑247 TEL・FAX 0979-88-3203
甘 木 歴 史 資 料 館	常設展示：「朝倉の歴史と民俗資料」 企画展示：10月20日（火）～11月29日（日）「どすこい・横綱梅ヶ谷展」 平成22年3月23日（火）～4月11日（日）「あ！サクラ展」 〒838-0068 朝倉市甘木216-2 TEL・FAX 0946-22-7515
柳 川 古 文 書 館	常設展示：「古文書解剖 ～古文書に書かれていること～」(～10月25日) (平成22年1月5日～) 企画展示：10月27日（火）～12月27日（日）「柳川藩の参勤交代」 第16回歴史文化講演会：11月21日（土）13:30～17:00 「近世大名と江戸の生活」（講師：大友一雄氏）、 「参勤交代制と柳川藩」（講師：丸山雍成氏）【会場】柳川市立図書館2FAVホール 併設展示：「柳川ひな祭り、さげもんめぐり」（平成22年2月下旬～） 古文書解説講座：毎月第4日曜日 入門・初級・応用の3コース（※平成22年度の受講者募集は平成22年3月に予定） 〒832-0021 柳川市隅町71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559

※九州歴史資料館の行事についてはホームページにて随時最新情報を提供しています。  
※各館の行事の詳細については直接お問い合わせください。

## くらかさ そせきぐん 太宰府周辺の史跡「蔵司礎石群」

大宰府政庁の西側には、「蔵司」と呼ばれている丘陵があります。「蔵司」とは西海道各地から集められた調・庸（地方の特産物や布、鉄）を管理するための役所です。丘陵上には礎石列が残り、これまでの研究では、「大宰府の正倉院」とも考えられています。当館では、今秋からこの蔵司丘陵の調査に入ります。



## 九州歴史資料館

所在地 〒818-0118 太宰府市石坂4-7-1  
電話 092-923-0404  
ファックス 092-923-0448  
交通 西鉄太宰府駅下車、徒歩10分  
開館時間 9時30分～16時30分（入館は16時まで）  
入館料 無料  
休館日 月曜日（ただし祝祭日の場合はその翌日）  
年末年始（12月28日～1月4日）